

# 2011 年度中間決算説明会

## 主な Q&A

Q: 欧米の信用収縮をリスクと見ているか、あるいはチャンスと見ているか。また、海外で買収などを検討するにあたって、どの地域に重点を置くのか教えて欲しい。

A: リスク・チャンス両面あるとは思いますが、現状はどちらかといえばチャンスと考えている。資産買収や資本投入については、社内の投資基準から見て良い話があれば積極的に検討する。逆に言えば、基準に見合わない案件へ安易に投資するつもりはなく、慎重にやっていく。

重点地域については、アジア中心と言いたいところだが、規制などもあり簡単ではない。米国は経済規模が大きく、経営管理が行いやすいという魅力があり、欧州もやり方次第では魅力があると考えている。あまり地域にはこだわってはいない。

Q: 国内債券の残高が 50 兆円を超えてきているが、国債投資のリスクをどう考えるか。また、これらの資金を円投に向ける考えはあるか教えて欲しい。

A: 貸出が伸びれば良いが現実的にはそう簡単ではなく、リスクウェイトゼロで期間収益を上げることができる国債に資金が集中しがちであることは否めない。また、政策株の絶対額が未だ多いことから、株式と債券の逆相関の関係を考慮して国債を保有している側面もある。

円投については、現状でも一定額を実施している。今以上に行うとなると、市場のリスクが高くなった環境下でもスワップ・マーケットが十分な流動性を維持できるかという懸念がある。次期中計では、リスク管理を一つの柱にしつつ成長戦略に取り組む考えである。

Q: 自己資本規制対応の進捗は十分との説明であったが、2~3 年の中期的な観点から株主還元施策に対する考えを伺いたい。

A: 当然ながら、株主還元を図らねばという気持ちは強く持っている。資本規制対応は順調に進捗しており、それなりに自信はあるが、経営環境の変化はドラスティックで、不透明な状況が続いている。何が起こるか分からない中では、内部留保の充実に一時的には配慮せざるを得ない。しかし、自己資本が一定の水準に達し、かつ業績に自信が持てれば、増配や自社株買いなどの株主還元策を検討する。

Q: GIIPS 向けエクスポージャーは欧米銀に比べれば少ないが、他の邦銀と比べれば最も多い。今後、残高圧縮、ヘッジ、引当強化などを行う考えはあるか。

A: 既に相応にヘッジしており、これから更にヘッジを行う場合はコストが高くなるため、よく考える必要がある。キャッシュフローが潤沢で、現状問題のない企業向け貸出にこれ以上引当を行うのは、現在の当社与信規定上は困難。また、国債も大半は満期保有。今後、何かが起こるかもしれないが、そのために予防的な手を打つということは、今すぐには考えられない。

Q: プレゼンテーション資料の 20 頁で、海外法人貸出利ざやや国内法人貸出利ざやに比べて多少水準が高いものの、足元では低下しているように見える。海外における利ざや拡大策を教えて欲しい。

A: 海外では、いわゆるブルーチップと呼ばれる大企業向けに貸出を行っているが、利ざやは特に意識していない。ポイントはクロスセルであり、貸出を基点にして債券引受、株式引受、トランザクション・バンキングなどにつなげ、総合的な収益増加に発展させることが重要だと考えている。利ざやだけの商売をするつもりは無く、証券子会社やモルガン・スタンレーの協力も得ながら、よりレベルアップした「MUFG」としての海外展開を考えている。

以上